

おうじ 王子と ふしぎ 不思議な ちから 力

むかしむかし とお とお くに わが おうじ す
昔々、遠い遠いある国に、若い王子が住んでいました。王子は、父である
おうさま うつく しろ しあわ く
王様と、美しいお城で幸せに暮らしていました。

ある日、おうさま おうじ よ い
ある日、王様が王子を呼んで言いました。「おまえに頼みたい、とても大切な
にんむ 任務があるのだが。」

やま む むらむら い
「山の向こうにある村々に行ってほしいのだ。そして、その村人達に、我々が
この国で満ちあふれるほどに持っている、この愛と喜びについて、教えてやって
ほしい。おまえがいなくなるととてもさびしくなるし、それを考えるだけで、
かな 悲しくもなるが、おまえが にんむ お かんが 任務を終えて帰ってくるまでのことだ。我々が村人達を
き 気にかけていることを伝えるには、それしか ほうほう 方法がないのでな。」

はじ 初めのうちは、おうじ おうじ あいだ
初めのうちは、王子も、たとえそれがしばらくの間だけだとしても、愛する
父のそばをはなれ、へいわ み 平和に満ちた、この上なく幸せな国から出て行くことを
かんが 考えるだけで、かな 悲しくなってしまうましたが、おうさま よろこ おも
王様は、こうも約束して言いました。大勢の人達を助け、また大勢の新しい友達
ができるのだから、もどってくる時には、今までよりも、はるかに幸せになるだろう
と。しばらくかんが 考えてから、おうじ ちち にんむ おこな い
と。しばらく考えてから、王子は父に、その任務を行うと言いました。



いよいよ 王子が 国を 出る 時、王様は 王子の 胸に 手を 当てて 言いました。
「おまえに、人々の 心 を 変える 不思議な 力を 授けよう。彼らも、我々が ここで
持っているような、愛に 満ちた 暮らしが できるようになって、もっと 幸せに
なれるようにな。」



「ありがとうございます、父上。みんなが ぼく達みたいに 幸せな 暮らしが
できるように、お手伝いできるのが 楽しみです！」と、王子が 言いました。

何日も 何日も 旅した 後、王子は やっと、山の 向こうの 村に 着きました。

とまれる 場所が 見つかると、王子は、村人達が どんなふう に 暮らしている
のが、見に 出がけました。草地に なった 公園に 来ると、子供達が 遊んで
いました。王子が 辺りで 見かけない 顔だと 気づいて、何人かの子供達が 話し
かけて きました。やがて 王子は、子供達と いっしょに 遊ぶ までに なりました。

日が 地平線の 向こうに しずみ始めると、遊び 時間も 終わりました。新しい
友達 は 王子に、いっしょに 遊べて すごく 楽しかった、また 遊んでね、と 言い
ました。王子は、うんと 返事を しました。それから というもの、王子は 毎日
午後になると 公園へ 行って、新しい 友達と いっしょに 遊ぶ ように なりました。



王子は友達に、父の話や、自分の住んでいる国にあるお城の話をしたりしました。父が国民をととても深く愛していて親切なこと、父が人々のめんどろを非常によく見てあげているので、王国にはだれも貧しい人がいないことなどを話しました。王子は、会った子供達の一人一人がみんな、自分も仲間だと感じられるように、気を配りました。だれかがケガをした時には、立ち止まってその子を助け起こしてあげました。すると、その子はすぐに立ち直りました。

村中をめぐり歩きながら、王子は会う人みんなに対して、同じようにやさしく、また親切に接しました。王子に不親切な人に対してさえもです。人々はたびたび、王子がこまっている人を助けている所を目にしていました。



ある日のことです。王子が子供達に、父や自分の国についての話をしていると、何人かの子供達があざ笑って言いました。「話が良すぎて信じられないな。そんなにすごい場所があるとか、君のお父さんが国民のめんどろをよくみてるなんて、あり得ないよ。」

すると、他の子供達が言いました。「だけど、王子はほく達にも、会う人みんなにも、とっても親切だよ。王子が気にかけてくれると、病気の人が元気になるのも見たしね。王子が言ってることは、本当だよ！」

「ほく達は、君を信じるよ！」子供達が王子に言いました。「君はいつだって、明るくて陽気で、ほく達は前よりも、ずっとずっと幸せなもの。もっと話を聞かせてよ。」

おうじ じぶん しんじてくれた ともだち
王子は、自分を信じてくれた友達
ひとり ひとり むね て お い
一人一人の胸に手を置いて、言い
ました。「父上が、不思議な力を
くだ 下さってね。それで、君達の暮らしを、
もっと おお よろこ あい
もっと大きな喜びと愛で、いっぱい
できるんだ。その おくり物を、今
きみたち もの いま
君達にもあげるね。」

おうじ ひとり ひとり こどもたち むね
王子が一人一人、子供達の胸に
て あ
手を当てていくと、子供達の心は、
よろこ あい み
喜びと愛で満ちあふれ、この新しい
ともだち
友達がしてくれたように、自分達も、
た ひとたち あい たす
他の人達を愛し、助け、みんなに
しんせつ
親切にしておあげたくなりました。
また、この おくり物を、自分の 知って
ひとたち
いる人達にもあげたくなりました。

たち きみ むら ひとたち しょうがい
「ほく達、君を村の人達に紹介する
から、この 素晴らしい おくり物を、その
ひとたち
人達にもあげてくれないかな。」と、
ひとり こ おうじ い
一人の子が王子に言いました。

「ほく、もうすぐ 父上の 元に 帰らな
きゃ いけないんだ。だけど、君達が
た ひとたち
他の人達に この おくり物を 分けて

あげたいと ねが ちちうえ くだ
あげたいと願っているから、父上がほくに下さったのと同じ、この 不思議な 力を、君達にも あげたよ。この おくり物は、
どうし あ ひとたち たい しんせつ たす
おたがい同士や、会うすべての人達に対して、やさしく親切になるのを 助けてくれるんだ。だから、君達も、他の人達の
こころ く よ
心や暮らしをより良くするお手伝いができるよ。」

いよいよ お城にもどる 時になると、若い おうじ した ともだち い
父上やほくのこと、それに、ほく達の 素晴らしい 国の ことを 教えてあげてほしいんだ！ 君達の 言う ことを 信じて
くた ひとたち ひとたち むね て お きみたち
くれた人達には、その人達の胸に手を置いて、ほくが君達に あげた、この 力を使うといい。そうすれば、その人達の
く暮らしも 愛で いっぱいになって、もっと しあわ み た
暮らしも愛でいっぱいになって、もっと幸せで満ち足りたものにしておあげられるよ。」



おうじ さ あたら ともだち
王子が 去ると、新しい 友達は
おうじ にんむ ひ おう
王子の 任務を 引きつぎ、王や
おうじ がれ すば くに
王子や 彼らの 素晴らしい 国の
ことを、他の 人達に 伝え続け
ました。また、彼ら自身が 感じて
いる 素晴らしい 喜びに つい
ても、話しました。子供達は、
おうじ が くれた 不思議な 力を
つか 使って、ひとひと 暮らしが 愛と
よろこ すば もの
喜びの 素晴らしい おくり物で
満たされる お手伝いをしたの
です。

そして、知っていましたか？
わたしたち はなし が
私達も、この お話に 書かれて
いるような、素晴らしい
不思議な おくり物を受け取る
ことができるのですよ。2,000
ねん いじょう まえ がみさま じしん
年以上も 前に、神様は ご自身の
むすこ 息子である イエス様を、この
ちじょう おく だ
地上に 送り出されました。
がみさま わたしたち たい も
神様が 私達に 対して 持って
おられる 素晴らしい 愛を、
わたしたち し
私達も 知る ことができる
ようにです。イエス様にとって、

ちち
父の そばを はなれるのは つらい ことだったけれど、私達が イエス様を 救い主として 信じ、受け入れる 時に 受け取れる、素晴らしい
すく もの
救いの おくり物について 知ることは、とても 大切だと 知って おられたのです。

がみさま たま わたしたち が
神様の み霊は、私達を 変えてくれる、不思議な 力のようです。それによって 暮らしが もっと 幸せに、また 豊かになります。
それは、がみさま あい あが わたしたち たの
それは、神様の 愛の 証しです。私達には、楽しみに できる、神様の 永遠の 天国があります。私達を 救うために ご自分の 息子を
おく だ
送り出されるほど、神様は 私達を 愛して下さったのです！



神様が どのように 大きな 愛で あなたを 愛しておられるかや、神様の 救いの おくり物について もっと 知りたいなら、この 小さな お祈りを 祈ってみて 下さいね。「神様、私に あなたの 愛を 下さるために、み子である イエス様を 送って下さった ことを 信じます。私は、イエス様と イエス様の 愛を、自分の 暮らしの 中に 受け入れます。私は、あなたの 天国で、永遠に いっしょに 暮らしたいです。どうか、私が 今までに してきた まちがいを、ゆるして下さい。私を、あなたの 素晴らしい 愛の 力で 満たして下さい。他の 人達も、あなたの 愛と 喜びで 満たされた、より 良い 暮らしが できるように、私が お手伝い できますように。アメン！」

これからは、イエス様が あなたの 心と 人生の 中に、永遠に とどまって 下さいます。いつも あなたの そばに いて、絶対に あなたの 元を はなれる ことはありません。愛する 親友 イエス様と、神様の 天国で 永遠に いっしょに 暮らす ことができるのです。

み子を 信じる 者は 永遠の 命を 持つ。
(口語訳聖書、ヨハネによる 福音書 3:36)

わたしが 来たのは、羊 (イエス様を 信じる 人々) が 命を 得、
また それを 豊かに 持つためです。
(新改訳聖書、ヨハネの 福音書 10:10)



寄稿: クリスティ・S・リンチ、マリア・フォンテンによる著作の編集 絵: ゼブ デザイン: ロイ・エバンス

出版: マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2021年、ファミリー・インターナショナル

"The Prince and the Magical Power"--Japanese 関連の読み物はこちら ⇒ イエス様、救い、子供のための物語